

(医)梶の木会

可児市・医療機関

従業員数／男性4名 女性40名 計44名 ※令和4年12月現在

エクセレント POINT

- ①地域連携や社会貢献に尽力
- ②各職員のそれぞれの長所を伸ばす人材育成システム
- ③短時間勤務と認可型未満児保育園併設で仕事と子育てとの両立を支援

可児市で梶の木内科医院を運営する梶の木会は、地域社会への貢献に尽力。災害発生時に施設を避難所として利用できるよう市に働きかけ、2022年に市長、地元の自治連合会長と協定を締結した。また、太陽光発電や蓄電池の設備を導入し、大規模災害時にも最低限の診察や治療ができるBCP対策も行つた。

外国语市民の新型コロナウイルス感染症に対する接種を実施する。その他の地域貢献として、子どもが医療の職業体験ができるイベント「梶の木内科キッザニア」を開催。梶尚志医院院長は「子どもが医療関係の仕事について知れるのは貴重。職員の子どもも参加し、親の職業について理解を深められた」とコメント収束後の再開を検討する。

子育てをしながら勤務している医師もいることから、仕事との両立に注力。他の事務スタッフ、看護師のラブステージに合わせて、産休・育休制度や時短勤務などを導入し、スタッフが「子育てをしながら仕事ができる」と話す。



事務職も兼任する管理栄養士の山田奈美さん(右)は「1人2役以上をこなせば仕事の効率が良くなる」と語る。



2019年には子ども職業体験「梶の木内科キッザニア」を開催。

医療業界の地域貢献と柔軟な働き方を実践

ワクチン接種を促進するため、市と連携して集団接種を7回実施。市内の外国人延べ900人余りにワクチンを接種した。日本語の接種券や問診票しかなく、手続きに戸惑う問題を解消するために翻訳スタッフの協力のもと、英語・ポルトガル語など複数の外国語で対応。接種をスムーズに行つた。

その他の地域貢献として、子ども

が医療の職業体験ができるイベント「梶の木内科キッザニア」を19年に開催。梶尚志医院院長は「子どもが医

療関係の仕事について知れるのは貴重。職員の子どもも参加し、親の職業について理解を深められた」とコメント収束後の再開を検討する。

子育てをしながら勤務している医師もいることから、仕事との両立に注力。他の事務スタッフ、看護師のラブステージに合わせて、産休・育休制度や時短勤務などを導入し、スタッフが「子育てをしながら仕事ができる」と話す。